

本書の企画が立てられたのはもう八年も前のことになる。刊行までにそれだけ時間がかかったのは、要するに筆者の怠惰によるもので、まず、辛抱強く待つてくださった世界思想社編集部の大保民夫氏に感謝しなければならぬ。もう諦めるか忘れるかして当然の頃に届いた原稿に、氏は注意深く目を通し、周到な助言をしてくださった。

とはいえ、アエネーアースの放浪よりも長い時間のあいだには、それなりに無駄ではなかったと思えることもある。第一は、企画が立ってすぐに、たまたま一年間、ハーバードで自由に研究できる機会が与えられたことである。ハーバードの古典学部はホメーロスの口承伝統研究のメッカで、かつてミルマン・パリやアルピン・ロードといったこの方面では知らぬ者のない研究者がユーゴスラビアで口誦詩を録音したアルミ盤のレコードや、口演の伴奏に使われたグスレ (gusle) という二弦楽器の実物を見るだけでも刺激になった。ただ、この経験は、他方で、自分の力量不足をあらためて痛感させられる機会となり、苦勞の始まりともなった。

第二は、ギリシア神話について、「古典学の再構築」という、当時の文部省科学研究費補助金による大きなプロジェクトの中で関連する研究をしたことである。怠惰な人間には強制的に成果報告を求めら

れることが必要であった。

第三は、キケロー、ウエルギリウス、セネカなどの訳業に従事したことである。すぐれた古典のテキストはいつも、なにか気づかずにはいたか忘れていたかしたことを思い出させてくれるもので、翻訳の過程での精読は、本書のはじめに記した「人間はすべてを知ることができない」という認識にあらためて想到するのに役立つ。

第四は、本書のとくに第Ⅱ部の主要部分を京都大学文学部の学生に授業で講じる機会をもてたことで、自分の考えに対する好意的あるいは批判的、また思いがけない反応を得たことは有益だった。

第五は、すぐ目の前に西年が見えてきたことで、冗談ではなく、「鳥」を本書の例話とするという考えが浮かんで「序」に記したようなところへ辿り着かなければ、今ごろまだ苦吟していたかもしれない。その点では、D. W. Thompson, *A Glossary of Greek Birds* (London, 1936) という本に対して、特別の感謝を捧げなければならない。これは、鳥の名前をギリシア語のアルファベット順に項目として挙げ、それぞれについて古典古代における言及箇所を網羅的に集めて整理・記述した本で、その恩恵は計り知れない。

さて、本書でのギリシア・ラテン原典からの引用にはすべて拙訳を用いた。古注は言うに及ばず、未邦訳の作品もいくつか取り上げなければならぬという事情もあったが、ミュートスが他へ働きかける言葉であるからには、それを日本語に置き換えるのに他人の訳文を借りるのは情けないという思いも強かった。とはいえ、結果をとまなっているかどうか自信があるわけではない。加えて、部分的な引用だけでは、どうしても文脈を十分に伝えることが困難にならざるをえない。そのあたりを補うためにも、またルーキアーノスが白鳥の歌と琥珀を求めてエーリダノス川を遡ったように、ギリシア神話を学ぶに

はまず原典に接して自分で確かめることが重要であることを強調して、本書に引いた原典の邦訳書を左に掲げて文献表に代えたいと思う（固有名詞や題名が本書での表記と異なる場合があるが、それぞれ訳書の表記に従って記す）。次の段階はおそらく、いわゆる二次文献を読むことではなく、原典を原語で理解することである。そのような人が数多く現れることを願ってやまない。

二〇〇五年秋

著者

\* \* \*

〔邦訳書一覽〕

アイスキュロス、松平千秋・久保正彰・岡道男編『ギリシア悲劇全集』（全二三巻、岩波書店、一九九〇—一九九三年）

第一・二・一〇巻所収。

アイリアノス『ギリシア奇談集』、松平千秋・中務哲郎訳、岩波文庫、一九八九年。

アテナイオス『食卓の賢人たち』全五冊、柳沼重剛訳、京都大学学術出版会、一九九七—二〇〇四年。

アポロドーロス『ギリシア神話』、高津春繁訳、岩波文庫、一九五三年。

アポロニオス『アルゴナウティカ—アルゴ船物語』、岡道男訳、講談社文芸文庫、一九九七年。

アリストテレース『アリストテレース詩学・ホラーティウス詩論』、松本仁助・岡道男訳、岩波文庫、一九九七年。

アリストテレース『動物誌』全二冊、島崎三郎訳、岩波文庫、一九九八・九九九年。

アリストパネス、高津春繁・吳茂一他訳『ギリシア喜劇全集』（全二巻、人文書院、一九六一年）所収。※現在、

岩波書店より『ギリシア喜劇全集』の刊行準備中。

アントーニヌス・リーベラーリス『変身物語集』（仮題）、安村典子訳、講談社文芸文庫（近刊予定）。

イソップ『イソップ寓話集』、中務哲郎訳、岩波文庫、一九九九年。

ウエルギリウス『アエネーイス』、岡道男・高橋宏幸訳、京都大学学術出版会、二〇〇一年。

- ウエルギリウス『牧歌／農耕詩』、小川正廣訳、京都大学学術出版会、二〇〇四年。
- エウリーピデース、松平千秋・久保正彰・岡道男編『ギリシア悲劇全集』（全一三巻、岩波書店、一九九〇―一九三一年）第五―九・一二巻所収。
- オウイデイウス『名婦の書簡』、松本克己訳、『世界名詩集大成Ⅰ 古代・中世』（平凡社、一九六〇年）所収。
- オウイデイウス『変身物語』全二冊、中村善也訳、岩波文庫、一九八一・八四年。
- オウイデイウス『祭暦』、高橋宏幸訳、国文社、一九九四年。
- カトウルス、中山恒夫訳編『ローマ恋愛詩人集』（国文社、一九八五年）所収。
- カリマコス『讚歌』、松平千秋訳、『世界名詩集大成Ⅰ 古代・中世』（平凡社、一九六〇年）所収。
- キケロー『キケロー選集』全一六巻、岡道男・片山英男・久保正彰・中務哲郎編、岩波書店、一九九九―二〇〇二年。
- キケロー『キケロー弁論集』、小川正廣・谷栄一郎・山沢孝至訳、岩波文庫、二〇〇五年。
- クイントゥス『トロイア戦記』、松田治訳、講談社学術文庫、二〇〇〇年。
- クセノパネス、内山勝利編『ソクラテス以前哲学者断片集』（全五冊別冊一、岩波書店、一九九六―九八年）第Ⅰ分冊所収。
- クセノフォン『饗宴』、村治能就訳、『世界人生論全集Ⅰ』（筑摩書房、一九六三年）所収。
- クセノフォン『ソクラテスの思い出』、佐々木理訳、岩波文庫、一九七四年（改版）。
- クセノボン『ソクラテス言行録』、内山勝利訳、京都大学学術出版会（近刊予定）。
- ストラボン『ギリシア・ローマ世界地誌』全二冊、飯尾都人訳、龍溪書舎、一九九四年。
- セネカ『セネカ悲劇集』全二冊、大西英文他訳、京都大学学術出版会、一九九七年。
- ソポクレーズ、松平千秋・久保正彰・岡道男編『ギリシア悲劇全集』（全二三巻、岩波書店、一九九〇―九三年）第三・四・一一巻所収。
- タキトゥス『年代記』全二冊、国原吉之助訳、岩波文庫、一九八一年。
- ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』全三冊、加来彰俊訳、岩波文庫、一九八四―九四年。
- ディオドロス『神代地誌』、飯尾都人訳編、龍溪書舎、一九九九年。

パウサニアス『ギリシア記』全二冊、飯尾都人訳編、龍溪書舎、一九九一年。

ヒュギーヌス『ギリシャ神話集』、松田治・青山照男訳、講談社学術文庫、二〇〇五年。

ピンダロス『祝勝歌集／断片選』、内田次信訳、京都大学学術出版会、二〇〇一年。

プラウトウス『ローマ喜劇集』全四冊、木村健治他訳、京都大学学術出版会、二〇〇〇—二〇〇二年。

プラトン『プラトン全集』全一六巻別巻一、田中美知太郎・藤沢令夫編、岩波書店、一九七四—七八年。

プリニウス『プリニウスの博物誌』全三冊、中野定雄・中野里見・中野美代訳、雄山閣出版、一九八六年。

プルタルコス『プルターク英雄伝』全一二冊、河野与一訳、岩波文庫、一九五二—五六年。

プロタロコス『モラリア』全一四冊（既刊五冊）、戸塚七郎他訳、京都大学学術出版会、一九九七年—。

プロペルティウス『叙事詩の環の詩の梗概』、岡道男・ホメロスにおける伝統の継承と創造』（創文社、一九八八年）所収。

ヘシオドス『神統記』、広川洋一訳、岩波文庫、一九八四年。

ヘシオドス『仕事と日』、松平千秋訳、岩波文庫、一九八六年。

ペレキュエーデース、内山勝利編『ソクラテス以前哲学者断片集』（全五冊別冊一、岩波書店、一九九六—九八年）

#### 第I分冊所収。

ヘロドトス『歴史』全三冊、松平千秋訳、岩波文庫、一九七二—七三年。

ホメロス『イリアス』全二冊、松平千秋訳、岩波文庫、一九九二年（下巻に伝ヘロドトス『ホメロス伝』を収録）。

ホメロス『オデュッセイア』全二冊、松平千秋訳、岩波文庫、一九九四年

『四つのギリシャ神話——ホメロース讃歌より』、逸身喜一郎・片山英男訳、岩波文庫、一九八五年。

『ホメロースの諸神讃歌』、沓掛良彦訳、平凡社、一九九〇年（ちくま学芸文庫、二〇〇四年）。

ホラーティウス『アリストテレス詩学・ホラーティウス詩論』、松本仁助・岡道男訳、岩波文庫、一九九七年。

ホラティウス『ホラティウス全集』、鈴木一郎訳、玉川大学出版部、二〇〇一年。

ルキアーノス『神々の対話他六篇』、呉茂一・山田潤二訳、岩波文庫、一九五三年。

ルキアーノス『ルキアーノス選集』、内田次信訳、国文社、一九九九年。